

第2回 学校関係者評価委員会

- 1 実施日 令和5年1月17日(火) 午後4時～5時00分
- 2 会場 図書室
- 3 参加者 学校関係者評価委員 小野 和明(教育振興会会長) 穂坂 暦広(教育振興会副会長)  
志村 勇(教育振興会副会長) 戸澤 聡 (教育関係有識者)  
清水 悟(百々育成会会長)  
清水 智文(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)  
高部 英美 (保護者代表・PTA副会長)  
学校側 望月 政幸 (校長) 矢崎 健 (教頭)  
福井 初美 (教務主任) 今村 里佳 (生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容

- (1) 教職員自己評価(教務主任) (2) 児童アンケート(生徒指導主任)  
(3) 保護者アンケート(教頭)についての解説や考察

5 協議された主な内容

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 教職員自己評価について

- 6 その他の①「各職員が、多忙化解消に向け、意識した取り組みを実施している。」の項目で「そう思わない」と感じている職員がいる。反面、保護者アンケートでは先生たちは一生懸命やってくれていると感じていることが分かるし、そのとおりだと思う。多忙化解消の取り組みは一層推進していただくことと、チーム百田でお互いに解消できるようにして行ってほしい。
- 学校は、本来抱えている業務や外部からの調査等で現状いっぱいではないのだろうか。学校全体で検討して何かを具体的に減らしていかないと多忙化解消には向かわない。そうしないと、仕事量は増える一方である。何かを変えるとか、減らすということは大変なことで、勇気をもってやっていると改善にはつながらない。
- かつては、この学校評価も、人事評価もなかった。今は昔の2倍、3倍の仕事量になっているのではないか。全部やっていたら自分たちの首を絞めるだけである。本年度の重点目標、昨年の改善点に力を入れて軽重をつける必要がある。また、評価のポイント数が90%台でありながらも、数パーセント下がっただけでも問題視しているが、肯定的評価が8割台ならよしとするくらいの気持ちでいてほしい。
- ☆ 本校職員の残業時間は1か月あたり平均40～50時間である。これは、勤務時間終了後毎日2～3時間残っていることになる。新型コロナウイルス感染症対策のために中止したもの、縮小したものがある。それらについては、今後元には戻さないようにする。また、一人一提案で分掌ごと行事の精選を行っている。以上のように学校全体で取り組んでいるが、今後も組織的な取り組みを行っていく。そのため、多忙化については以前よりは解消されているが、若手は教材研究を丁寧にやらなくてはならない。そのため、1日当たり2～3時間は残業をしなくてはならないのが現状である。

○ 考察に「問題が起こると校長を中心とした対策会議を行っている。」とあるが、実際のところそのような会議は開催されたのか。

☆ 定期的に子供たちへのアンケート調査を行うと同時に学級担任による聞き取りを行っている。その結果、継続している件、子供が納得できない件、保護者から訴えがあった件については、校長を中心として組織的に対応している。場合によっては保護者を交え、校長、教頭、教務主任、生徒指導主任も入り会議を行っている。以前なら簡単に考えていたようなことも、全部拾い上げるようにして、3か月何事もなければ解消したと考えている。

## (2) 子供の様子について

○ 保護者アンケートの中で「子どもの基礎学力が身についている」が他の項目に比べても低いのは心配である。一人一人の実態に即した指導を行うためには教材研究は欠かせない。そのためには、時間確保をしていかななくてはならない。そうでなければ授業が学習の場ではなく、訓練の場になってしまう。働き方改革も考慮しながら、子供のために努力してほしい。

☆ 学力向上は学校の最重要課題の一つである。本校の児童の実態としてここ数年「書くこと」の力が劣っていた。このことを踏まえ、校内研を中心にこの2年間重点的に取り組んできた。その結果、この領域の力は全国レベルまで上がってきている。さらに向上を目指して取り組んでいきたい。

○ PC教育について、パソコンを個人的に持っている・持っていない、興味がある・ない等によってPCの扱いや学習に格差が生じてしまうのではないか。

☆ GIGAスクール構想により、学校では児童一人一台のPCを与えている。欠席児童のため、また、教室を分割して授業をすることもあるので、オンライン授業もしている。PCを使っただけの授業には大分慣れているし、今や学習用具として日常的に使っている。

むしろ、問題なのはスマホの使い方である。本校での調査の結果、日頃から4時間以上使っている児童の割合が驚くほど増えている。脳科学の研究者によると、使い過ぎは精神の発達などに支障をきたすということである。このことを保護者に訴えていかなければならない。御勅使中学校区ではアウトメディアへの取り組みも行っているので、うまく活用していきたい。

○ アンケートの結果からは、ルールを決めているという家庭が7割もあることはいいことである。しかし、ルールは決めても親の見てないところでやっていることもある。コロナで家にいることが多いので、長い時間を持て余し、常にスマホを手にしていう傾向にある。家庭における子供への対応はとてもしんどい状況にある。

○ 本校における特別支援学級の状況について教えてほしい。

☆ 本校には現在、知的学級1、自閉症・情緒学級2、弱視学級1の合計5学級がある。現在は自閉症・情緒学級に入級する児童が増えている。学習に対する能力は高いが、長時間集中力が続かない子、普通学級では特性の関係上落ち着かなかったり、集中できなかったりという子などがいる。そのような子供たちへも学習の保証はしっかりとしたいと考えている。令和5年度は全体で22人が在籍する予定になっている。

○ 地域の中では子供たちはあいさつがしっかりできている印象がある。むしろ、大人の方ができていない。交通ルールも子供は守るが大人は守らない。地域にも呼び掛けてモラルを守らせない。

☆ 子供の成長には学校だけでなく、家庭・地域の協力と連携が必要である。学校からも呼び掛けていくが、是非ここにお集まりの皆さんからも呼び掛けていただきたい。

- 教師の考えと児童の考えにずれがあるかもしれない。そこで、同じアンケートを教師と児童にしてみるとよいのではないか。教師の考えと比較できると思う。

## 6 まとめ

- (1) 保護者のアンケートからは、基礎基本の徹底やつまずきなどへの指導を望んでいることが分かる。学習がきちんとできてこそ学校は楽しいところとなるだろう。そのためにも校内研究会を通して授業改善や指導力の向上に努めていきたい。3学期は今年度のまとめと来年度への準備の期間でもある。今年度身につけるべきところは取りこぼしのないよう、本校で取り組んできたことをベースに指導に当たっていきたい
- (2) 今回も、教職員の負担の大きさが話題に上った。学校独自で様々な取り組みを行い、働き方改革には一定の成果が表れてきていると考える。さらに、普段の仕事においても優先順位をつけたり軽重をつけたりしながら、働き方改革を推し進めていかななくてはならない。
- (3) 今回の学校評価でも、概ね良い評価がされている。このことは、本校の教育活動が安定して行われていると考えることができる。しかし、学校関係者評価委員会の中でも説明したが、低い評価の項目については検討し重点的に取り組んでいきたい。

記載責任者 学校関係者評価委員会委員長 (PTA会長) 清水 智文